

太子高校の挑戦 その17

「アクティブ・ラーニング de 合科授業」に挑戦!

本年度は、太子高校の「挑戦の年」と位置づけて「学力向上」「授業改善」に取り組んでいます。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校の挑戦について知っていただければと考えています。

平成 28 年 1 月 28 日（木）の 4 時間目に、本校初の試みとして「現代社会」と「数学Ⅰ」の合科授業が行われました。アクティブ・ラーニングの手法を用いれば、異なった教科でも同時進行で授業ができるのではないかという、担当者の発想からでした。講義棟で 3 クラスの生徒達が、それぞれの授業内容に従って配布されたプリントに取り組みました。約 120 名の生徒達が一斉に学び合っている姿を見て、授業はいくらでも工夫できるということ、アクティブ・ラーニングを推進している本校の方向性は間違っていないということに、意を強くしました。

生徒達は、単に一緒にいるだけではないのです。現代社会のクラスでは、このときの数学Ⅰの内容はすでに学習済みでした。数学の授業担当者が「他のクラスの人に教えてもらっても良いですよ」と話したこともあってか、中にはクラスの枠を超えて学び合っている生徒達も見受けられました。もちろん、授業理解の邪魔をしてはいけませんが、そういう心配は無用でした。なぜなら、現代社会も数学も「全員がプリントに解答する」という目標をクリアしていたからです。生徒達の力には、ほんとうに驚かされます。

ただ、アクティブ・ラーニングの授業における要注意事項があります。それは、「できたふりをするのは簡単だ」ということです。プリントが終わっていないのに、自分の名札を「できた」グループに移動させてしまった生徒や、無駄話をして学習を進めなかった生徒がいました。教師からは、なぜアクティブ・ラーニングで学び合っているのかという意義が、丁寧な言葉で語られました。自分を偽って出来たふりをして得るものは無いこと、そのごまかしを知っているはずの周囲の生徒は、その生徒を見捨てていることになるということ、それでは授業の目標が達成できたとは言えないし、本当の学びにはほど遠い授業になってしまうという内容でした。対象のクラスは、全員がシンとして教師の話に耳を傾けしっかりと受け止めていました。後ろ姿の姿勢を見れば、そのことが分かります。学び合いは、全員が全員との真剣勝負なのです。

ONE SHOT



食堂前の自販機周辺です。ジュースのコップや空のペットボトルが散乱しやすい所ですが、ゴミが全く落ちていません。このあたりに限らず、生徒会や美化委員の人たちが、定期的に掃除をしてくれています。学校がどんどんきれいになっています。すると、きれいな場所がきれいなまま保たれているのです。お互いがお互いを思いやる気持ちが、確かに育っていると感じます。

みなさん、ほんとうにありがとう!

学校のカ・イ・ダ・ン

3 学期の体育は、マラソンです。寒い中、生徒は一生懸命走っています。先日、体育科の K 先生が少し痩せられたように見えました。「あれ? ちょっと痩せましたか。」と、私。「いえ、毎日授業中に生徒と一緒に精一杯走ってますから。ラ○ザップよりも結果にコミットしてますよ!」と、笑って K 先生。生徒より一生懸命走る教師の姿を見ては、生徒は走らざるを得ませんね。まさに、有言実行の教育です。